

【香川県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
綾川町	羽床上東	県オリジナル米・麦の作付拡大と高収益作物導入の推進	1	H29.08	3
さぬき市	石神池	ため池の耐震化整備により地域の安心・安全の実現へ	2	H31.03	5
観音寺市	野々池	大規模地震に備え、ため池耐震化整備により下流地域を守る！	3	R元.12	6
綾川町	羽床上西	基盤整備により効率的な営農への転換	4	R4.03	8
観音寺市	油井北側	地域の一体的な営農を補完する小規模な基盤整備の取組	5	R5.03	9
綾川町	羽床下	基盤整備を生かした営農作業の効率化・省力化に向けた取組	6	R6.03	10

【工夫のポイント】

- 区画整理やパイプライン化により **水利統合を図り、維持管理や配水管理の省力化**が実現。
- 基盤整備を契機に、**担い手への農地集積・集約化**が進み、戸当たり経営規模が拡大。
- ブランド米を作付けするとともに、乾田化した水田で、**二毛作としてブランド麦やブロッコリーなどの生産を拡大**。

【取組地域の概要】

- 位置 あやがわちよ
香川県 綾川町 (過疎地域)



- 主要作物
・水稲、麦、ブロッコリー 等
- 主な支援施策
・農業競争力強化基盤整備事業(H21～H26)
・多面的機能支払交付金(H19～)

農地整備や用水のパイプライン化による二毛作の推進

区画整理や用水のパイプライン化等により、**維持管理作業に係る労力の軽減と用水の効率的な利用(ため池からの無効放流減による節水や裏作への冬季用水の利用)**が図られた。また、汎用化や安定した農業用水の確保により、**水田での高品質な畑作物の生産が可能となった**。

基盤



基盤整備 (H21年～H26年)

【整備前】

農地は**小規模不整形、農道も狭小なため大型機械の導入が困難**。また、水路は多くが土水路で、**ため池をはじめとする特殊な水利慣行**などから配水管理に**多大な労力**を要していた。



多様な二毛作の実施と 県オリジナル米・麦の推進

生産現場

羽床上東地区の作付面積の変化(裏作を含む)



- 乾田化や農業用水の確保により、**二毛作として麦やブロッコリーなどの生産を拡大**。
- 官民協働の「かがわ農産物流通消費推進協議会」が中心となり、**オリジナルブランドの作付を推進し、高付加価値化を図る**。



ほ場整備を契機とした農地集約

担い手

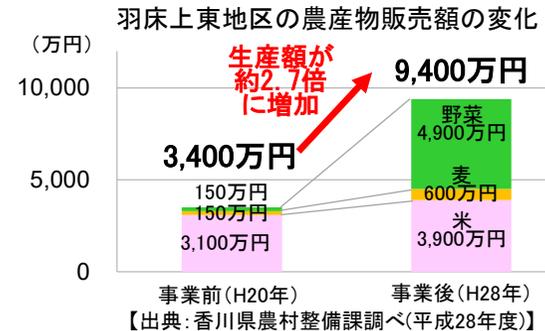
羽床上東地区の農地集積状況



- 区画整備に併せて、**担い手へ農地を集積・集約化**(担い手1戸当たり経営面積 9.4→16.7ha)。
- パイプライン化と併せて**既存の配水系統を見直す**とともに、水利組合を再編統合(9→6組織)し、合理化。

高収益作物の導入等による生産額の増加

- 基盤整備により、水田での野菜の作付が進むとともに、ブランド米・麦の作付の推進などによって、羽床上東地区の**農産物販売額は事業前に比べて、約2.7倍に増加**。特に、ブロッコリー等**野菜の販売額が大きく増加**しており、収益性の向上に貢献。(聞き取りでは、ブロッコリーは**販売額の約4割が農業者の所得**となる)



【工夫のポイント】

- 南海トラフ大規模地震の発生確率が高まる中、ため池密度が全国一の香川県では、震度7が予測される地域もあり、ため池の耐震化対策は待ったなしの状況。
- 全国に先駆けてため池の耐震化整備を実施し、堤体の決壊及びため池下流域の被害を未然に防止。

【取組地域の概要】

- 位置
香川県さぬき市(特農、山村)



- 主要作物
・水稲、キャベツ 等
- 主な支援施策(事業歴)
・県営かんがい排水事業(S27~S38)
・震災対策農業水利施設整備事業
耐震性点検調査(H23~H25)
耐震化整備工事(H25~H26)

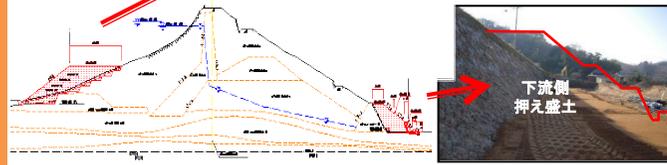
基盤

ため池決壊による浸水被害を防止

ため池耐震補強工事の実施により、ため池決壊のリスクを取り除き、下流域の安全を確保。



【耐震補強後断面】



基盤整備
(H25年~H26年)

生産現場

安心できる農業生産現場の確保

- 耐震補強工事の実施により、受益161haを潤す水源が守られるとともに、下流農地で安心して農業生産を営める環境が整った。



地域の取組

市と連携した防災学習会の開催

- ため池ハザードマップの作成や耐震補強工事の実施により、地域の防災意識が向上。
- 自治会集会場にて、石神池のハザードマップを活用し、地域特性や避難経路等について、住民と情報を共有。

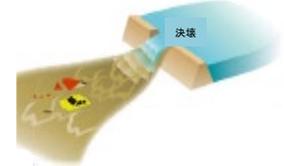
【整備前】

香川県では、慢性的な水不足に対応するため、古くから多くのため池に貯水し、節水しながら営農を実施してきた。また、香川用水通水後は、ため池を調整地として活用し、効率的な水利用を行ってきた。

しかしながら、近年、ため池の老朽化が進行するとともに、南海トラフ地震の発生が懸念されることから、ため池の決壊により多大な被害が発生するおそれ。

＜過去の南海トラフ地震での県内被災歴＞

1854年(安政元年)に発生した南海トラフ巨大地震である安政南海地震において
 ・決壊 7か所
 ・堤防大破 264か所
 のため池が被災
 (『さぬきのため池誌』より)



浸水被害の未然防止と財政健全化への貢献

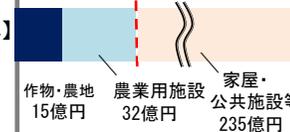
- 耐震補強工事の実施により、農地や農業用施設はもとより、下流住民の生命、財産、公共施設への被害を未然に防止。
- 事業実施により、被害想定額より安価に整備。
【被害想定額 282億円 > 整備費 2.3億円】

想定被害額

被害想定図

- 約282億円の想定被害を未然に防止。

【整備なし】



【整備あり】



【工夫のポイント】

- 南海トラフ大規模地震の発生確率が高まる中、ため池密度が全国一の本県では、震度7が予測される地域もあり、**ため池の耐震化対策は喫緊の課題**。
- 耐震性調査の結果、耐震性が確保されていない**ため池の耐震化整備を実施**し、堤体の決壊及びため池下流域の**被害を未然に防止**。

【取組地域の概要】

- 位置 かんおんじし
香川県観音寺市(特農、山村)

香川県



ののいけ
野々池地区

- 主要作物
・水稲、レタス、青ネギ 等
- 主な支援施策
・老朽ため池等整備事業(H4~H5)
・震災対策農業水利施設整備事業
・耐震性点検調査(H25~H26)
・耐震補強工事(H29)

基盤

ため池決壊による浸水被害を防止

ため池耐震補強工事の実施により、**ため池決壊**のリスクを取り除き、**下流域の安全を確保**。



耐震化整備
(H29年)

【背景】

降水量が少なく渇水の多い香川県では、農業用水の主要水源として、ため池を数多く築造。南海トラフ地震の発生が懸念される中、**ため池の決壊により多大な被害が発生する恐れ**。

想定被害区域内には、農地のほか、集落、主要道路、JR、学校等が存在。



生産現場

安心できる農業生産現場の確保

- 耐震補強工事の実施により、**受益37haを潤す水源が守られるとともに、下流農地で安心して農業生産を営める環境が整った**。



【参考】レタス・青ネギの栽培について
 【レタス】栽培面積:16ha 生産額:7千万円
 【青ネギ】栽培面積:4ha 生産額:2千万円

地域の取組

市が防災学習会を開催

- **ため池ハザードマップの作成や耐震補強工事の実施により、地域の防災意識が向上**。
- 市が自治会集会場にて、**ため池ハザードマップを用いた出前講座を実施し、住民にハザードマップの見方、活用方法を教授**。



浸水被害の未然防止と財政健全化への貢献

- 耐震補強工事の実施により、**農地や農業用施設はもとより、下流住民の生命、財産、公共施設への被害を未然に防止**。
- 事業実施により、被害想定額より安価に整備。
【被害想定額 33億円 > 整備費 1.9億円】
- **約33億円の想定被害を未然に防止**。



想定被害額



【対策のポイント】

- 基盤整備により営農効率の良いほ場が整備され、**営農の効率化や担い手への農地集積を促進**。
- パイプライン化により、**水管理や維持管理労力を軽減**。
- 基盤整備を契機に地域の担い手組織として、**農事組合法人を立ち上げ、効率的な営農を展開し、地域農業を振興**。

【取組地域の概要】

- 位置 あやがわちよう
香川県綾川町

香川県

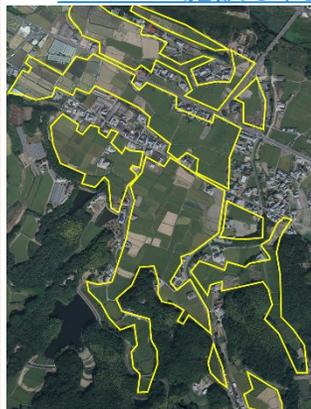


はゆかかみにし
羽床上西地区

- 事業名
農業競争力強化農地整備事業 (H23～H30)
- 主要作物
水稻、ブロッコリー
- 受益面積 24.6ha
- 主要工事
区画整理: 24.6ha

区画整理と農業用水のパイプライン化

- **現況ほ場が狭小、不整形で道路も未整備、かんがい施設も未整備。効率的な営農に支障**。



基盤

土水路による配水

基盤
整備
(H23～H30)

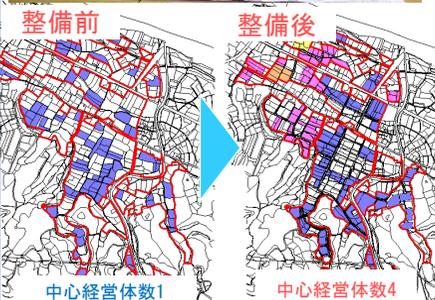


整備された農道・農地

効率的な営農や生産拡大に向けて



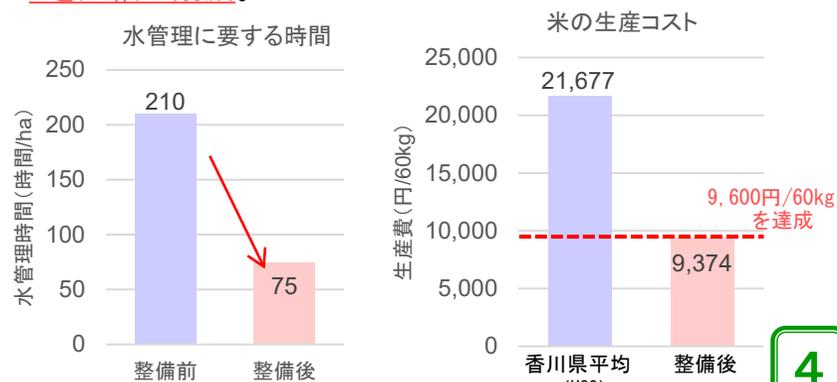
地域の
取組



対策の
効果

営農の効率化とコメの生産コストの削減

- パイプライン整備により、用水管理に要する時間が大幅に削減され**営農が効率化**。
- 農事組合法人の立上げによる規模拡大とともに、農業機械の集約や適切な農作業人員の配置により、**コメの生産コストを大幅に削減**。



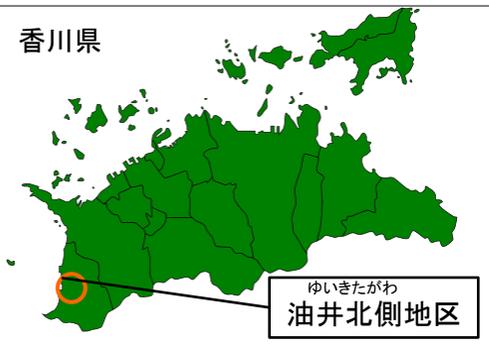
【工夫のポイント】

- 小規模な基盤整備を活用し、地域の一体的な区画整理が完了したことにより、**農地集積**や**高収益作物の導入**が促進され、**農家の所得向上を実現**。
- 畜産農家と連携した**堆肥の施肥**による**環境保全型農業**の実践。
- 集落営農組織が中心となって、農作業機械の操作研修などの支援により、地域の**後継者を育成**。

【取組地域の概要】

- 位置 かんおんじし
香川県 観音寺市

香川県



ゆいきたがわ
油井北側地区

- 主要作物
・水稲、麦、レタス、ブロッコリー、たまねぎ等
- 主な支援施策
・農地耕作条件改善事業(H29~R1)
・多面的機能支払交付金(H19~)

基盤

地域の営農を補完する小規模な基盤整備

- **農地耕作条件改善事業**の創設により、小規模な基盤整備でも団体営事業による実施が可能。
- 地方自治法が改正され、認可地縁団体へ登記が可能となる特例制度により、共有地の解消の目処が立った。
- 取り残されていた本地区が整備され、**地域の一体的な営農を補完**。



基盤整備
(H29年~R1年)

【整備前】

平成6年度から基盤整備に取り組んでいたが、本地区4.1haにおいては、**共有地の相続の権利調整等が難航し、取り残されていた**。共有地は**遊休農地化**し、雑草等の管理不足による問題が発生。



生産現場

耕畜連携による環境保全型農業

- 畜産農家と連携し、堆肥を農地に還元することにより、各ほ場の**化学肥料の使用量を平均して2/3程度に低減**。



地域の取組

地域で支える農業

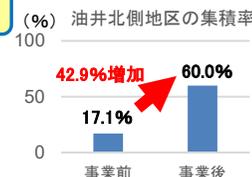
- **油井営農支援組合**(集落営農組織)が中心となって、**農地の流動化**や**農機具の共同利用**を行い、担い手だけでなく、地域で支える農業を推進。
- **各種農業機械の操作研修**や**大型特殊免許取得への支援**を行い、**オペレーターの後継者育成**に取り組んでいる。



担い手

農地中間管理機構を活用した集積促進

- 集積率に応じた地元負担を軽減する単事業や**農地中間管理機構の活用**により、担い手への**農地集積を促進**し、**高収益作物の耕作面積も増加**。



基盤整備による生産額の向上

- 担い手による営農転換により、地区内の**作付面積約100%UP**。
- 高収益作物の導入と農地利用率の向上により、**生産額が大きく向上**。



【工夫のポイント】

- 区画整理やパイプライン化により、**維持管理や配水管理を省力化**。
- 基盤整備を契機に、**担い手への農地の集積・集約化を進めるとともに、担い手の維持管理負担の軽減**にも取り組む。
- 農地法面への**センチピードグラスの導入**や、**農地集約によるドローンの効率的な利用**により、営農作業の省力化を加速。

【取組地域の概要】

- 位置 あやがわちょう
香川県 綾川町 (棚田地域)



- 主要作物
・水稲、麦 等
- 主な支援施策
・農業競争力強化基盤整備事業 (H29～R6 予定)

基盤

農地整備と用水のパイプライン化による汎用化と管理労力の軽減

- 農地整備で水田を汎用化し、用水のパイプライン化で農業用水を安定的に確保。**水田での高品質な畑作物の生産を促進**。
- 区画整理や用水のパイプライン化をすることで、**維持管理作業の労力の軽減と用水の効率的な利用に寄与**。



基盤整備

(H29年～)

【整備前】

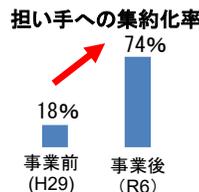
農地が**小規模・不整形、農道も狭小**なため、**大型機械の導入が困難**。
かんがい施設の老朽化による漏水等で、**配水管理に多大な労力**。



担い手

基盤整備を契機とした担い手の育成

- 区画整理に併せて、**担い手へ農地を集積・集約化**(担い手1戸当たり経営面積 2.5ha→3.8ha)。
- 地域の担い手として農事組合法人をH30に設立(経営面積14.9ha)。
- 地区農用地面積 39.7haのうち30.8haを担い手に集積。そのうち**約74%の22.9haを集約化**。



地域の取組

担い手の維持管理負担を軽減

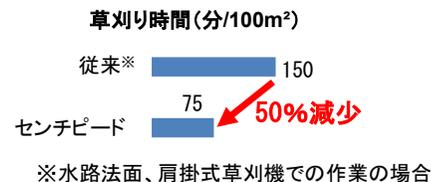
- 農地集積に伴って増加する、担い手の草刈り作業の省力化が必要。



カバープランツを導入

基盤整備を生かした営農作業の省力化・効率化

- 他の雑草の侵入を抑える効果のある**センチピードグラスを法面に吹付ける**ことで、**担い手の草刈り回数を軽減**。



- 農地を集約することで、**ドローンの連続稼働範囲が広がり、農薬散布の正確性・効率性が向上**。
- 人力からドローンによる農薬散布に切り替える農地も増加。

